

「防災塾・だるま」Bサロン

共助力を向上させ災害時に地域の住民の命を守る取り組みを目指すには

【テーマ】

自然災害から命を守るには
＜各地域での災害リスク対策を考える＞

Bサロンリーダー

山田美智子

Bサロンに関して

- ▶ サロン名称: **共助力向上サロン**
- ▶ **【活動目標】**: 災害時に命を守る行動と活動(犠牲者を出さないためには)

メンバー: 山田(リーダー)増田(副リーダー)稲垣・松原
荻原・原田・中根・栗原・釜石・磯野(Dサロン兼任)

Bサロン主催活動「自分の地域の災害リスク研究からの対策」
2021年6月27日【第184回談義の会】垣中祐二講師

垣中祐二氏 (北綱小学校地域防災拠点副委員長)

- ▶ テーマ:「境目のない自助・共助の構築を目指して」～被災者0を目指す地域一体となった、自助・共助・医療との連携～

2022年8月18日山田(津波) 増田(土砂災害)稲垣(地震)
松原(水害)

10月20日中根(ろ過装置紹介) 荻原(応災力について)

10月8日(土)【エクステンション講座】(命を守る避難行動)(山田)

11月25日(金)【第189回談義の会】原田剛講師(Bサロン) 担当

「自主防災会会長の災害時の役割」

各地域の災害リスクに沿った研究発表

「共助」災害時に自分自身と地域住民の命を守る為に

1. 津波(山田)平塚市「地盤図や逃げ地図からの避難ルート」
2. 土砂災害(増田)「葉山の地形から土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域を知り対処を考える」
3. 水害(松原)横浜市栄区(洪水・浸水からの避難)
「マイタイムラインの作成」研究
4. 地震「火災」(稲垣)旭区南笹野台は高台に位置
「ご近所防災の訓練と研修を実施。子ども会にも呼びかけ」
5. 応災力と地震予知研究(荻原)
6. 「災害時に生活の質を向上させる非常用生活用水浄化装置」について(中根)
7. 生き残る為の『避難行動』と『備え』『自主防災会長の災害時の役割』(原田)



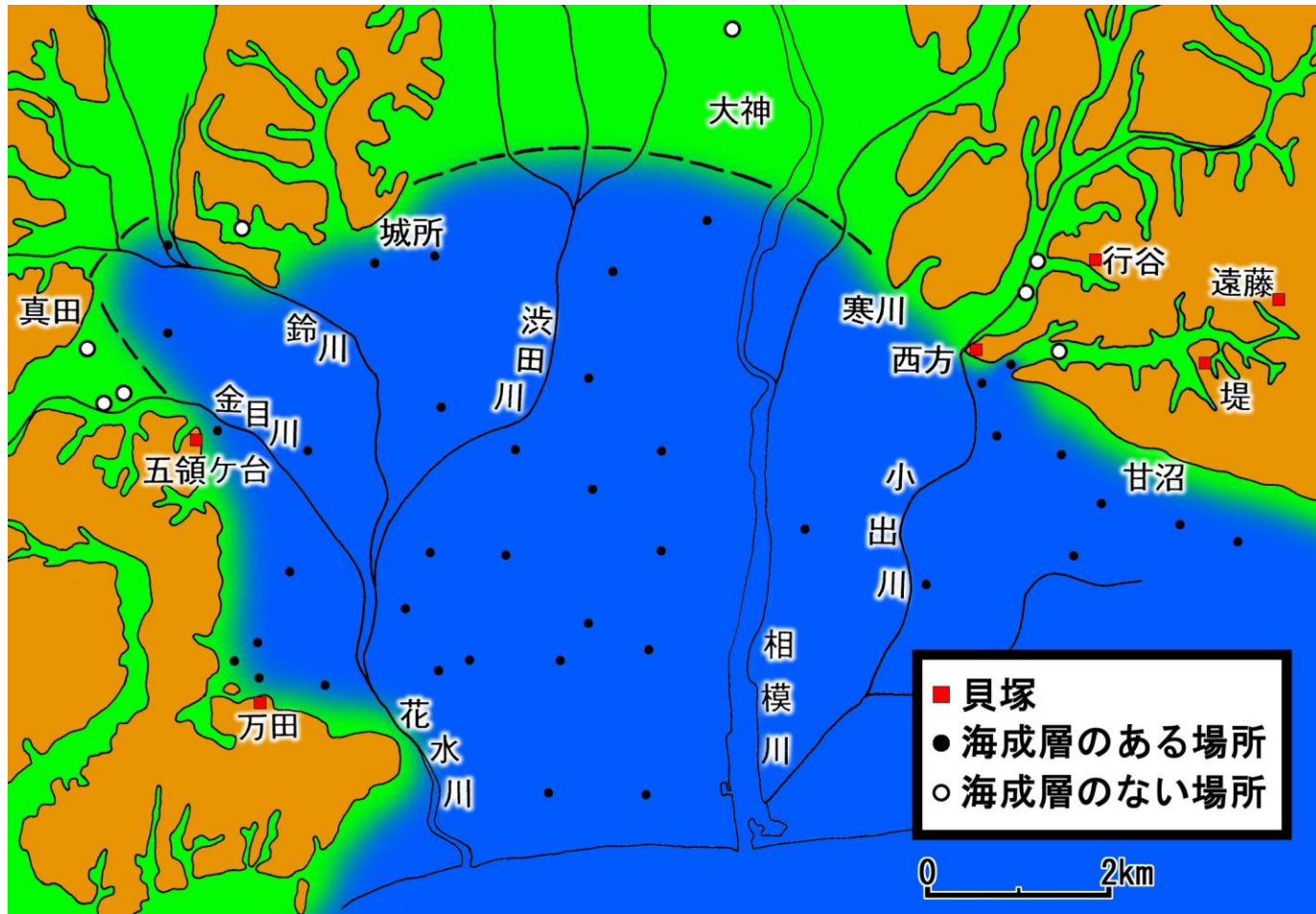
「地形から災害リスクを考察する」

神奈川県地形（山田）

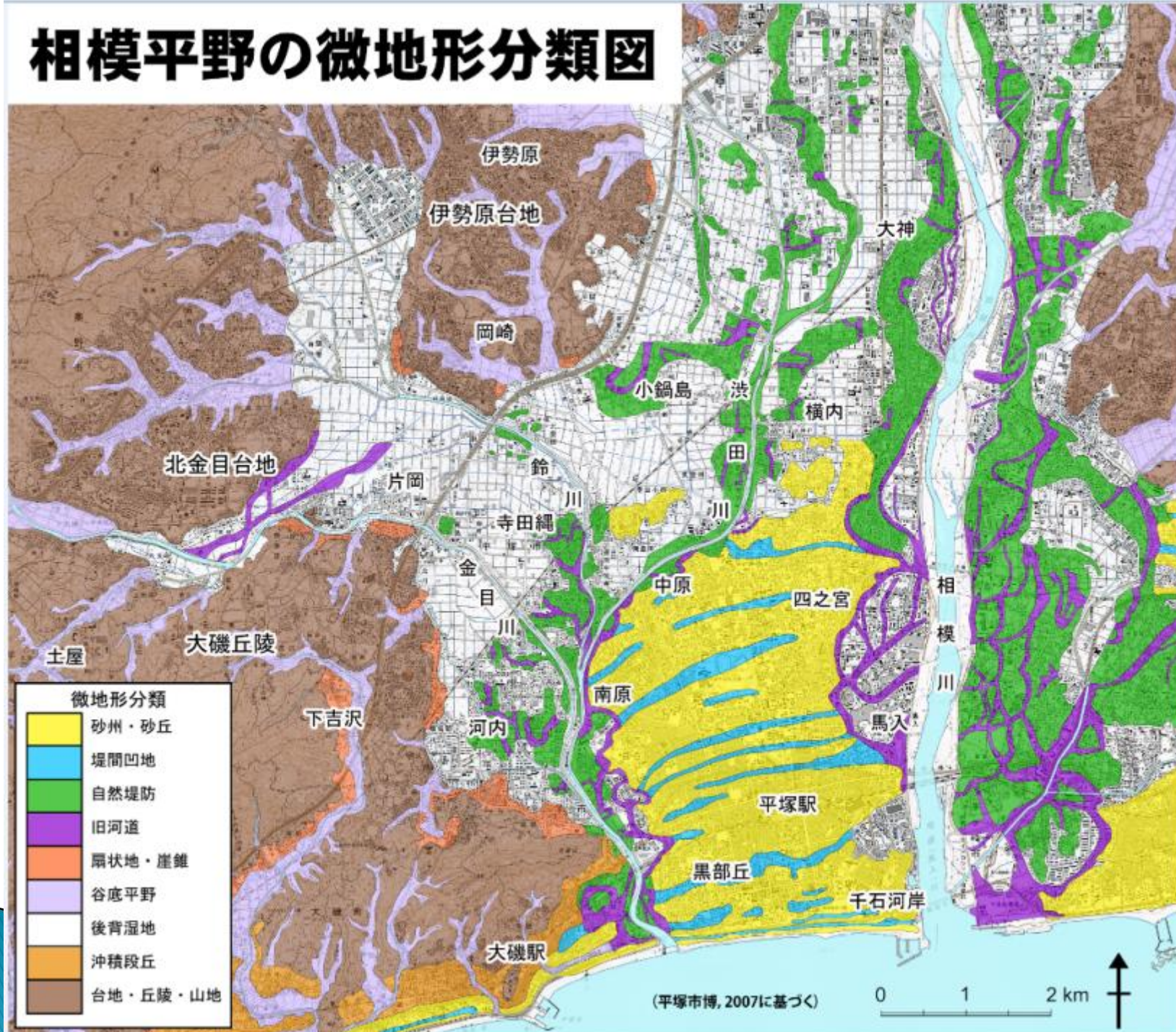
＜複雑な構造で地震が起きやすい特異な場所＞

- ▶ 関東平野の地質構造はプレートの境界があり、フィリピン海プレートが年間3～5センチ本州側の北米プレートに沈み込んでいる。
- ▶ 現在のプレート境界は丹沢山地と足柄山地を境とするもので、神縄断層や国府津－松田断層にあたると考えられている。この地域は伊豆の衝突による第四紀の変動地帯で、数多くの活断層が知られている。「丹沢山地(火山)は本州に衝突し隆起して相模川ができた」伊豆大島もいずれは本州に衝突。「関東大震災から来年100年」

縄文海進「6000年前」



相模平野の微地形分類図



平塚周辺の地盤図

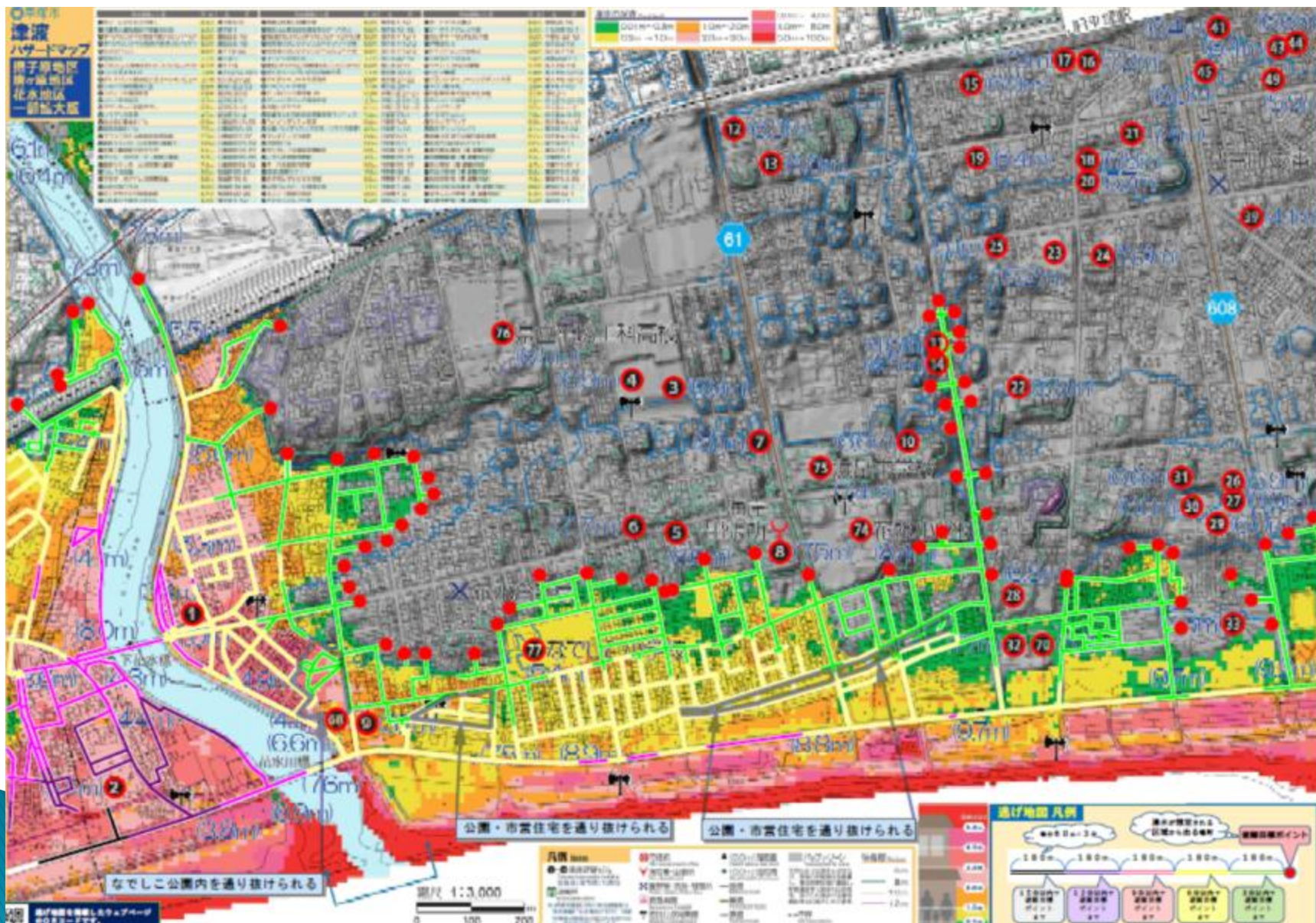
平塚市博物館2007年

凡 例

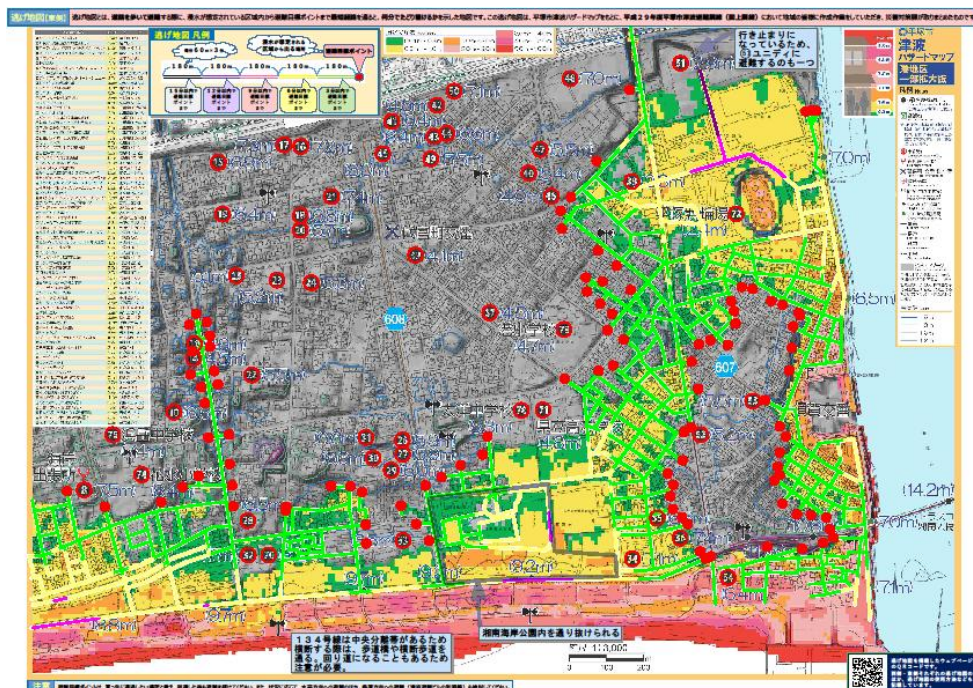
相模平野微地形分類



平塚市の逃げ地図(金目川側)



平塚での津波の想定は高さ9.6m、6分以内に海岸迄来る
より高く、より早く最短で安全な避難目標ポイント●地点まで
避難→津波避難ビルなどへ



地震が発生したら津波の危険を確認

- ▶ : 自宅が津波の危険があるか「津波ハザードマップ」をよく見て確認。津波は通常の波とは全く別物。海水全体が塊で迫ってきて想像以上の威力がある。
- ▶ 津波の速度は水深が深いほど速く。迫ってくることを見てから避難をしたのでは間に合わない。
- ▶ 津波注意報(1m)・警報(3m)・大津波警報(10m以上)
★1mで動くことができなくなる。

山田自身の津波から避難する行動 (マイタイムライン)津波

住所:平塚市 黒部丘

- ▶ 住んでいるところの地形
- ▶ 地形からの災害リスク:相模湾と金目川(花水川)から200m
- ▶ 海にも川にも近いが9,6mで高台で水害浸水の
- ▶ 可能性は低いが津波の想定外の高さが襲ってくる場合は指定避難所「平塚工科高校4階に避難」
- ▶ 自宅の構造:木造2階建て(ツーバイフォー住宅で耐震性はある)
- ▶ 自宅周辺の環境:家の前の道は広く交通量は少ない住宅地域で、近くに空き家など壊れやすい危険な建物はないが高い建物もない
- ▶ :砂丘 海拔: 9,6m
- ▶ (避難所:広域避難所):神奈川県立平塚工科高校(鉄筋コンクリート創り5階
- ▶ 校舎によっては実験機械の多い危険な教室有り
- ▶ **自宅から指定避難所までの距離と時間:徒歩6分
(津波が短時間で到達の場合は自転車使用)**

自分自身のマイタイムラインの課題

(家族の安否確認・要援護者支援・自治会防災副部長の役割・メディアの仕事の重複)

▶ 【津波マイタイムライン】

- | 発生時間 | 状況 | 情報確認 | 注意点 | とるべき行動 |
|------------|-----------------------------|--------------|-----|--------|
| ▶ 海溝側地震発生 | 【震度7大津波警報発令】 | ラジオ・防災無線で確認 | | |
| ▶ | (2階自宅から周囲の状況を確認) | | | |
| ▶ 発生から1分後 | 自治会役員連絡網駆使 | 避難所へ避難する | | |
| ▶ | 【電話・メール使用可能】⇒無線機の活用 | | | |
| ▶ 発生から6分後 | 6分で9, 6m津波襲来 | 自治会地域住民へ避難誘導 | | |
| ▶ | 【携帯電話・メール使用不可になる】 | | | |
| ▶ 発生から10分後 | 津波が海拔5mの地点まで | 工科高校5階へ避難 | | |
| ▶ | 【防災拠点・配備職員と行政・学校職員と連絡・本部設置】 | | | |
| ▶ 発生から30分 | 続々避難者が高校へ | 避難者誘導 | | |
| ▶ | 【ガス・水道停止】ライフライン停止 | | | |
| ▶ 発生から1時間 | 避難所での応急手当・要援護者支援・活動ボランティア募集 | | | |

地域で災害被害から共助の力で命を守るには【対策】

- ▶ 自治会の中に「自主防災会を設立」人材育成
- ▶ マイタイムライン・コミュニティタイムラインの作成・勉強会を実施→マニュアル作成【時系列の避難行】
- ▶ まずは自分の住んでいる地域の地形の成り立ちとリスクを知る【地盤図・ハザードマップ・災害の歴史】
- * みんなで楽しくまち歩きをして「防災マップ」作成
- * その成果を踏まえて図上訓練と実際の「防災訓練実施」
- ★ 地区防災計画に挑戦して継続できるシステム作り

増田 佳恵 (4人家族、中学生の息子2人)
大雨・台風のと時のマイ・タイムライン

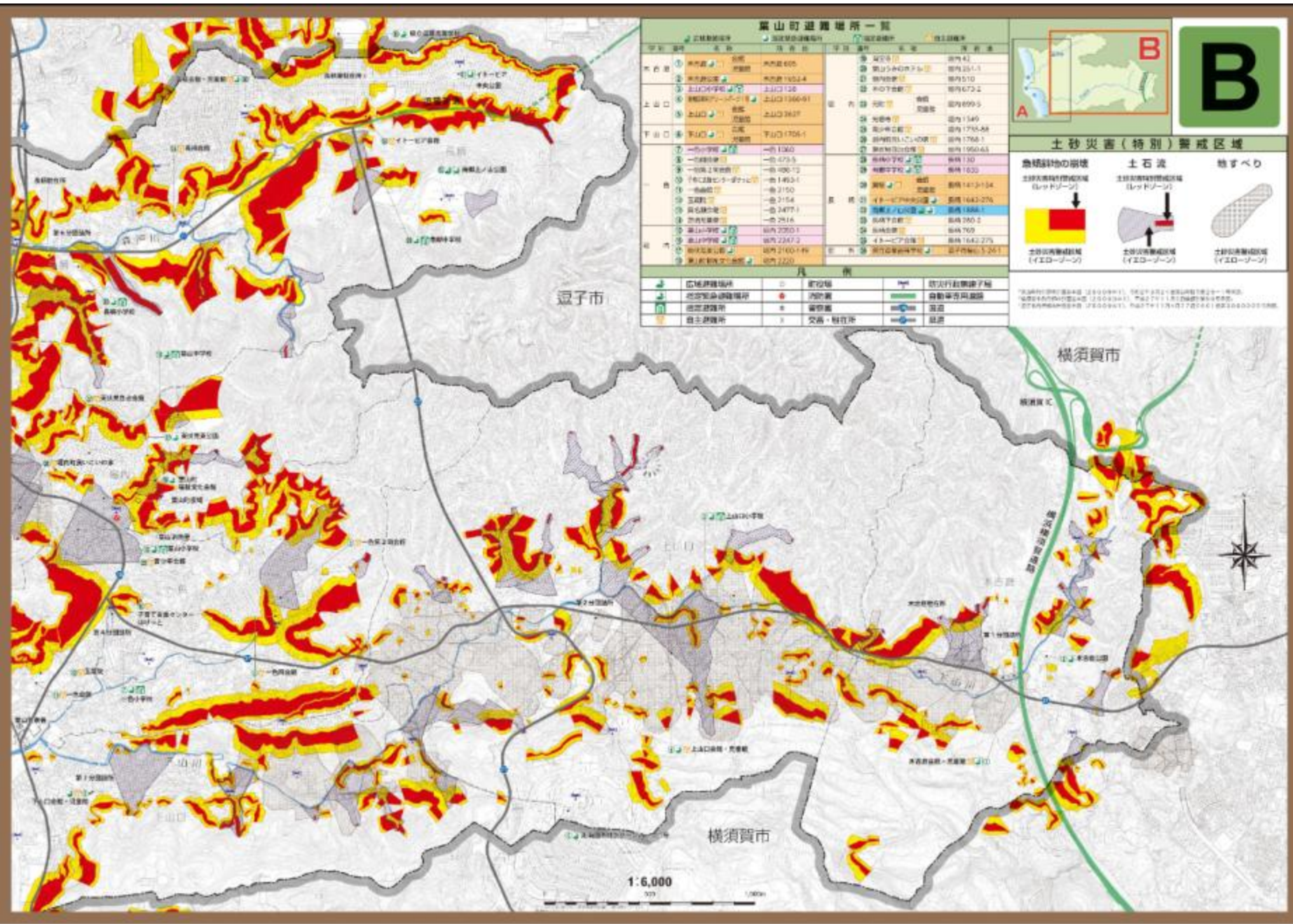
30年ほど前に山を開発して作られた住宅地の傾斜地に建つ住宅(木造2階建て)に住んでいます。
ハザードマップでは、自宅が土砂崩れの危険が想定されている区域に指定されています。周囲にもそのような区域がたくさんあります。7月の大雨(2021年)では、近くで大きな土砂崩れが発生しました。「土砂災害警戒情報」発表後、非常に激しく雨が降り、避難の難しい中で起こりました。(その際、葉山町からは「高齢者等避難」、「避難指示」はだされていませんでした。)避難先までに、内水氾濫の心配される場所が多くありそうです。(葉山町の内水ハザードマップはありません。)

警戒レベル		1	2	3 災害のおそれあり	4 災害のおそれ高い	5 災害の発生 又は切迫
情報	大雨・台風等の気象情報(全国)	大雨注意報		大雨警報		
	(土砂災害に関する情報)			大雨警報(土砂災害)	土砂災害警戒情報	
				(ハザードマップ等)による(防災情報)		
	参考にする 土砂災害に関する情報 降水量等に関する情報	気象庁『今後の雨(降水短時間予報)』(15時間先までの1時間降水量を予報) 神奈川県『神奈川県土砂災害警戒情報ポータル』内『水位雨量情報』(1時間雨量、累計雨量グラフ) 神奈川県『神奈川県土砂災害警戒情報ポータル』内『土壌雨量指数』(リアルタイムでマップ上に土壌雨量指数表示) 気象庁『ナウキャスト(雨雲の動き・雷・竜巻)』(1時間先までの5分毎の降水の強さを1km四方の細かさで予報)				
避難情報 (葉山町)				高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
行動	天気予報等で状況把握			■大雨警報(土砂災害)が発表されたら、行動を開始します。		
	食料の確保			① 避難するか否かを決定をします。(『土壌雨量指数』、『水位雨量情報』、『今後の雨(降水短時間予報)』) 「土砂災害警戒情報」*が発表されそうか、常時、『土壌雨量指数』等を確認しながら検討します。		
	家の周りの片づけ			② 持ち出し品を確認します。		
	避難先の確認 (自主避難所開設の相談等)			③ 避難先を決定します。(葉山町の「避難情報」を確認(避難所の開設状況等)) 候補1 (一色第2同会館 小規模な平屋、避難所開設の体制がない) 候補2 (一色小学校 学校入口が道路面より低い) ④ 避難タイミングを検討します。(『ナウキャスト(雨雲の動き・雷・竜巻)』) できるだけ安全に避難できるタイミングを、雨雲の動きを見ながら考えて決めます。 ⑤ 避難開始(避難にかかる時間) 避難完了 雨の比較的弱くなったタイミングをみて家を出ます。		

*土砂災害警戒情報は、土壌雨量指数を基にして発表される。土砂災害警戒情報の発表される際の葉山町の土壌雨量指数は170ほど。

検討課題: 夜間に大雨警報(土砂災害)が発表されたらどうするか。

平日中に大雨警報(土砂災害)が発表されたらどうするか。学校の判断の下に動く必要あり。



嵐山町避難場所一覧											
正統避難場所			指定緊急避難場所			自主避難場所					
町別	避難場所	住所	町別	避難場所	住所	町別	避難場所	住所	町別		
本 町	① 本町公民館	本町 605	上 山 口	① 上山口公民館	上山口 126	下 山 口	① 下山口公民館	下山口 1706-1	一 色	① 一色公民館	一色 1360
	② 本町公民館	本町 1652-4		② 上山口公民館	上山口 126		② 下山口公民館	下山口 1706-1		② 一色公民館	一色 1360
	③ 本町公民館	本町 1660-61		③ 上山口公民館	上山口 1660-61		③ 下山口公民館	下山口 1706-1		③ 一色公民館	一色 1360
	④ 本町公民館	本町 1660-61		④ 上山口公民館	上山口 1660-61		④ 下山口公民館	下山口 1706-1		④ 一色公民館	一色 1360
上 山 口	① 上山口公民館	上山口 126	下 山 口	① 下山口公民館	下山口 1706-1	一 色	① 一色公民館	一色 1360	長 井	① 長井公民館	長井 1413-134
	② 上山口公民館	上山口 126		② 下山口公民館	下山口 1706-1		② 一色公民館	一色 1360		② 長井公民館	長井 1413-134
	③ 上山口公民館	上山口 126		③ 下山口公民館	下山口 1706-1		③ 一色公民館	一色 1360		③ 長井公民館	長井 1413-134
	④ 上山口公民館	上山口 126		④ 下山口公民館	下山口 1706-1		④ 一色公民館	一色 1360		④ 長井公民館	長井 1413-134
下 山 口	① 下山口公民館	下山口 1706-1	一 色	① 一色公民館	一色 1360	長 井	① 長井公民館	長井 1413-134	長 井	① 長井公民館	長井 1413-134
	② 下山口公民館	下山口 1706-1		② 一色公民館	一色 1360		② 長井公民館	長井 1413-134		② 長井公民館	長井 1413-134
	③ 下山口公民館	下山口 1706-1		③ 一色公民館	一色 1360		③ 長井公民館	長井 1413-134		③ 長井公民館	長井 1413-134
	④ 下山口公民館	下山口 1706-1		④ 一色公民館	一色 1360		④ 長井公民館	長井 1413-134		④ 長井公民館	長井 1413-134
一 色	① 一色公民館	一色 1360	長 井	① 長井公民館	長井 1413-134	長 井	① 長井公民館	長井 1413-134	長 井	① 長井公民館	長井 1413-134
	② 一色公民館	一色 1360		② 長井公民館	長井 1413-134		② 長井公民館	長井 1413-134		② 長井公民館	長井 1413-134
	③ 一色公民館	一色 1360		③ 長井公民館	長井 1413-134		③ 長井公民館	長井 1413-134		③ 長井公民館	長井 1413-134
	④ 一色公民館	一色 1360		④ 長井公民館	長井 1413-134		④ 長井公民館	長井 1413-134		④ 長井公民館	長井 1413-134
長 井	① 長井公民館	長井 1413-134	長 井	① 長井公民館	長井 1413-134	長 井	① 長井公民館	長井 1413-134	長 井	① 長井公民館	長井 1413-134
	② 長井公民館	長井 1413-134		② 長井公民館	長井 1413-134		② 長井公民館	長井 1413-134		② 長井公民館	長井 1413-134
	③ 長井公民館	長井 1413-134		③ 長井公民館	長井 1413-134		③ 長井公民館	長井 1413-134		③ 長井公民館	長井 1413-134
	④ 長井公民館	長井 1413-134		④ 長井公民館	長井 1413-134		④ 長井公民館	長井 1413-134		④ 長井公民館	長井 1413-134
注 意 事 項											
① 血縁避難場所	② 家内避難	③ 指定緊急避難場所	④ 避難所	⑤ 避難所	⑥ 避難所	⑦ 避難所	⑧ 避難所	⑨ 避難所	⑩ 避難所		
① 血縁避難場所	② 家内避難	③ 指定緊急避難場所	④ 避難所	⑤ 避難所	⑥ 避難所	⑦ 避難所	⑧ 避難所	⑨ 避難所	⑩ 避難所		
① 血縁避難場所	② 家内避難	③ 指定緊急避難場所	④ 避難所	⑤ 避難所	⑥ 避難所	⑦ 避難所	⑧ 避難所	⑨ 避難所	⑩ 避難所		
① 血縁避難場所	② 家内避難	③ 指定緊急避難場所	④ 避難所	⑤ 避難所	⑥ 避難所	⑦ 避難所	⑧ 避難所	⑨ 避難所	⑩ 避難所		

B

土砂災害（特別）警戒区域

急傾斜地の崩壊
土石流
地すべり

土砂災害警戒区域
(イエローゾーン)

土砂災害警戒区域
(イエローゾーン)

土砂災害警戒区域
(イエローゾーン)

1. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
2. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
3. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
4. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
5. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
6. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
7. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
8. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
9. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
10. 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

1:6,000



土砂災害について(増田)

「葉山地区は土砂災害リスクが高い」

『増田さん自身の災害リスク』

- ▶ 30年ほど前に山を開発して作られた住宅地の傾斜地に立つ住宅(木造2階建て)ハザードマップで危険地域
- ▶ 避難先までに「内水氾濫の心配される場所があるが「内水ハザードマップ」が葉山町では配布されていない)

「大雨警報」や「土砂災害警戒情報」の発表に注意するが「土壌雨量指数」の確認を常時する。

- 避難先：候補1 一色第2岡会館 一小規模平屋・避難所体制無し

候補2 一式小学校 一学校入口は道路面より低い

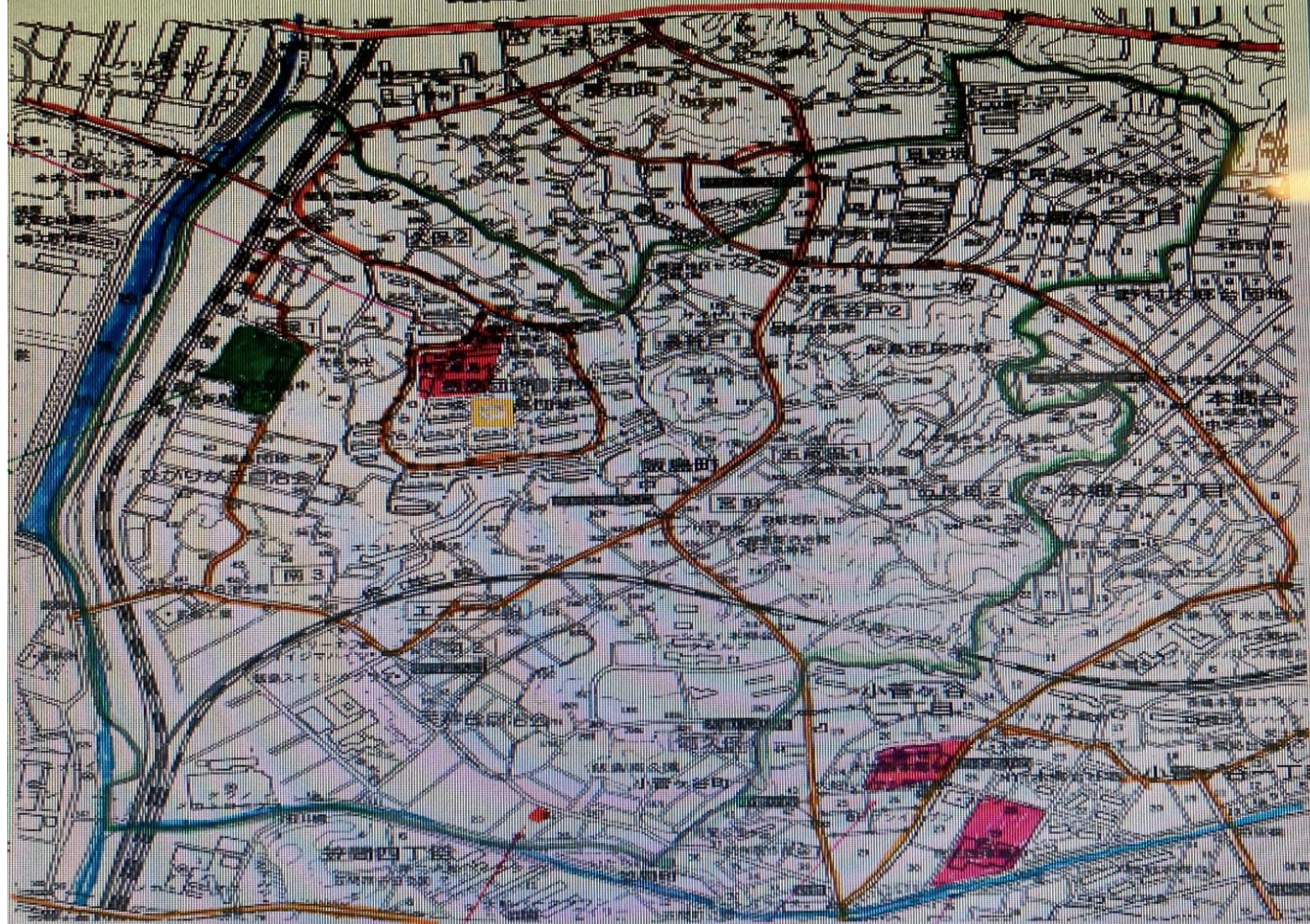
- 避難のタイミングをナウキャストなどを確認して検討

【土砂災害の対策】

災害による犠牲者のトップ（水害による土砂崩れ等）（大地震を除く）

- ▶ 気象、地形、河川、人工的
- ▶ 土地の改変による地盤条件、
- ▶ 危険な宅地開発
- ▶ 早めの避難、垂直避難、山側から離れる。
- ▶ 高齢の方は1階で就寝していることが多い。
- ▶ 事が起きる前に行動できるかが大事。

飯島地区町内会略図



自宅

西本郷小学校

世帯構成：2人世帯（高齢者大人2人）、生活環境 自宅周辺は最大3mの浸水が予想される。車保有していない。

平常時の確認事項

●事前に自宅の状況「地形や地質」、「ハザードマップから災害リスク」、「避難所までの距離と所要時間」を確認しておく

【自宅のある地形等の特徴】

盛土地、埋立地。約18,000年～現在までに形成された最も新しい時代の地層

海拔：12.1m。いたち川から約100m。柏尾川合流点からいたち川を500m上流の地点付近

【浸水深：0.5～3.0m】 【浸水継続時間：12時間未満】

●避難する場所： ☒ 垂直避難（自宅2階等） ☐ 安全な親戚・知人の居宅 ☐ 近くの安全で頑丈な建物
☐ 指定避難所（地域防災拠点）

●指定避難所（地域防災拠点）： **飯島中学校** 移動時間： 徒歩で約18分（高齢者 約25分）

（その他の交通手段について）・・・車で行くことは避けるべき

（駐車場等について）・・・校庭に置くことは避けるべきだが

●避難する時に支援してくれる人 名前： 該当者なし 連絡先と連絡方法 （ - ）
支援を求めている人 名前： 該当者なし 連絡先と連絡方法 （ - ）

●避難するタイミング レベル3 高齢者等避難発令 高齢者夫婦なので、まずは、避難行動先決？
は、「いつ」 町内会自主防災組織（STANS）のメンバーなので役割分担あるかも？
横浜市河川カメラ（ライブカメラ）で、いたち川の水位情報をチェックし、氾濫危険水位を超えたところで判断する。
栄区役所から避難指示が発令された時【レベル4】 高齢者夫婦はその時点では、避難難しい。・・・留意事項

3日前 警戒レベル1, 2 **家が浸水することが分かった。** 浸水が0.5mの場合、自宅2階へ避難。1.8m以上は、避難所へ避難？
▼気象・行政の情報収集 大雨に関する気象情報（テレビ、ラジオ、パソコン、スマホ）
◎ハザードマップの確認 ◎避難場所・避難経路の確認 ◎家族の予定と携帯電話など連絡先の確認

「避難する時に必要なものを準備をする」

◎非常用持出品の確認 ○懐中電灯・ラジオ・充電器の用意 ○飲料水・非常食 ○カッパ ○常用薬の確認 ○貴重品 ○杖

3時間前 警戒レベル3 **高齢者避難等** 自宅2階に避難。水平避難、指定避難所は開設していない。飯島町内会館へ（確認必要）
準備に要する時間 約1時間 水平避難の場合：経路の再チェック
横浜市河川カメラ（ライブカメラ）で、いたち川の水位情報をチェックし、避難判断水位を超えるかどうか確認
栄区 氾濫警戒情報発表

2時間前 警戒レベル4 避難指示 栄区 指定避難所（地域防災拠点）開設 **飯島中学校**
横浜市河川カメラ（ライブカメラ）で、いたち川の水位情報をチェックし、氾濫危険水位到達を確認
指定避難所が開設されたら確認し、飯島中学校への避難だが、
この時点での自宅（垂直避難を選ぶ）からの飯島中学校への移動は困難…断念？

避難完了

0時間 警戒レベル5 緊急安全確保
災害がすでに発生する状況。自宅2階に避難していても、命を守る行動を心がける。

横浜市栄区飯島町の水害について(松原)

「いたち川から100m大雨での災害リスクが高い」

- ▶ [自宅の地形] 盛土地・埋立地 海拔12, 2m
- ▶ いたち川から100m柏尾川合流点から500m
「浸水深12, 2m」 「浸水継続時間:12時間未満」
浸水は0.5m「自宅2階へ避難」1, 8m「避難所へ避難」

【警戒レベル3:高齢者避難で避難開始

指定避難所:飯島中学校 【徒歩18分】歩行困難者30分

レベル4でないと開設されない。

- ・液状化の可能性はやや高い
- ・土砂災害の可能性 はない

該当する	地域の地形からの災害リスクをもとに「マイタイムライン」(避難行動計画)作成(名前) (住所)
()口内に ○かしを	【自宅のある地形等の特徴】①()山地 ()丘陵 ()台地 ②()谷底低地 ③()沖積低地 【災害リスクの種類】①()地震災害(火災等) ②()気象災害、水害 ③()津波災害 ④()土砂災害 ⑤()その他「 」 【自宅のある地形等の特徴】①海拔()m ②近くの川まで(キロ m) 川の名前「 」③海まで(キロ m) 崖まで()m 【地域のハザードマップを確認(洪水)】①自宅が浸水被害の危険がある「浸水深さ()m 浸水継続時間()(日)()時間 (津波)① 想定の高さ()m②地震からの到達時間()分 ③安全な場所「 」避難場所(高い所)までの所要時間()分 (土砂災害)①自宅の土砂災害警戒区域 ()イエローゾーン()土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン) 避難の方法①()立ち退き避難(水平避難 ()室内安全確保2階へ(垂直避難)() 室内で崖側と反対の位置へ移動 ●避難する場所： □指定避難所 □安全な親戚・知人の居宅 □近くの安全で頑丈な建物 指定避難所の学校名・施設名() (その他の交通手段について)・・・車で行くことは避けるべき ()徒歩では時間がかかる場合は自転車を使用 ●避難する時に支援してくれる人 名前() 連絡先と連絡方法 () 該当者なし 支援を求めている人 名前：() 連絡先と連絡方法 () 該当者なし ●テレビ・ラジオなどから情報を収集して避難のタイミングを決める準備をする。 その他の情報入手先()防災気象WE サイト()防災行政用無線 ()フェイスブック・ツイッター・ホットメール ・SNS ●避難するタイミング ()レベル1早期注意情報 ()行政から情報ができればすぐに避難所へ避難 (レベル3から) は、「いつ」 ()レベル2大雨・洪水・高潮注意報 ()行政から避難情報が出てから夜中なら避難しない ()レベル3高齢者等避難 ()自治会や近所の人から連絡があれば避難所へ避難する ()レベル4避難指示 ()あくまで情報収集を自分自身で行い自分が避難する時を判断する ()レベル5緊急安全確保 3日前 警戒レベル1, 2 家が浸水することが分かった。()浸水が()m ()自宅垂直避難 ()浸水()で避難所へ避難 ▼気象・行政の情報収集 大雨に関する気象情報入手方法()テレビ()ラジオ ()パソコン()スマホ()SNS ()無線 ◎ハザードマップの確認 ◎避難場所・避難経路の確認 ◎家族の予定と携帯電話など連絡先の確認 「避難する時に必要なものを準備をする」 ◎非常用持出品の確認 ◎懐中電灯・ラジオ・充電器の用意 ◎水・飲料水・非常食 ◎カッパ ◎常用薬の確認 5時間前 警戒レベル3 高齢者等避難 準備に要する時間()時間 誰と避難するか() 河川カメラなどで近くの川の状況を確認 防災無線を聴く 不在の家族との連絡 行政、自治会からの連絡確認 3時間前 警戒レベル4 避難指示 ()避難所へ避難 <注意点> ()事前に準備している非常用持ち出し袋を持参 ()緊急避難で長期避難ではないので持ち出し袋は持参しない ()戸締りをする ()プレカーを落として避難する ()持病薬の準備 ()長靴ではない靴を履いて避難 ()コロナ禍の避難で必ずマスク・消毒液・タオル・飲料水・非常食を持参して避難する 避難完了 0時間 警戒レベル5 緊急安全確保 ()発令されて避難所開設の場合は避難 ()発令されても状況判断で避難しない。 災害がすでに発生する状況。自宅2階に避難していても、命を守る行動を心がける。

1・南笹野台はどんな町…自治会加入率98%!!

1985年以降に出来た旭区の高台の新築住宅地(戸数200戸)

津波、洪水、地滑りなし → 「地震対策に集中」・怪我、圧迫死、火災が3大リスク



自治会内の家屋は100%が新耐震の家

2カ所のいっとき避難場所

高台にある戸建て住宅

2. 地元の地形特性と阪神淡路地震の検証から、自治会の防災・減災対策の方針を定めた

南笹野台の「互近助防災」の肝→被災時人的被害ゼロの町=『命を守り、命を助ける互近助防災』

(背景)都市型大震災の「阪神淡路地震」を検証『震度7 何が生死を分けたのか』NHKスペシャル

1・地震被災後1時間が生死を分ける勝負の時間帯→南の防災はここに特化

阪神淡路では死者6450人の内「3800人」が1時間以内に死亡→その殆どは「互援圧迫窒息死」
1時間以内に命を守り、命を救ったのは、自分・家族と近隣の住民の力。この時間帯には、消防も警察も自衛隊も現場に到着出来ない。→自主防災隊による『互近助防災』の重要性を共有。

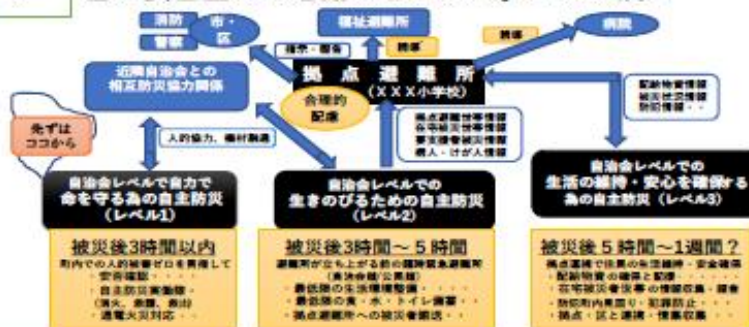
2. 1時間以内に「勝負」するために、南笹野台は下記に特化した活動を展開

- 被災後の安否確認の短時間化→顔見知りの「班単位」(20〜30軒)で確認、安全なら黄色タオル
- 安否確認は災害弱者優先訪問→「世帯カード」で早期異常発見し優先救出
- 異常発見したら、実働隊(救出・救護・消火隊)の即時出動→トランシーブ活用
火災は先ず消火器で消火、中火は消火器持寄りで消火力アップ、最後はスタンバイ消火
- 以上を年1回の防災(安否確認)訓練で繰り返し経験し実践力を向上させる

3. 上記を可能とする為に

- 全戸対象防災ファクトの実施→「災害弱者存在を含めた世帯情報」「住民の自助準備状況」→回収率90%
- 絆と連携を支える「自治会加入率95%」「30年にわたる各種イベントへの住民参加」→顔見知り
- 「3年任期の減災センター(自主防災隊)役員の存在」→「自治会役員と独立」「主婦と退職者中心」
→1交代の自治会役員でなく「3年任期の減災役員」が「継続性確保の肝」

3・自治会自主防災活動の被災後 時間帯別3段階



南笹野台ではレベル1達成に3年を要し、レベル2は6年目の今年から着手というのが実態です。
レベル3は地域拠点避難所の準備不足もあり、具体的な方針・指示がなく手付かずの状態です。
自主防災活動は、立ち上げて苦労し、維持発展は我慢と継続が必要で時間がかかる事を覚悟しよう

4・南笹野台の減災(安否確認訓練の流れ)



この訓練も当初は「安否確認」のみで開始し、徐々に「実働隊出動訓練」を追加し、更に「トランシーブ活用」も付加し、今は「いっとき集結訓練」、非常時の「マンホールトイレ開設訓練」と訓練内容の充実化を図ってきた。今年は「防災ツアー」も新機軸で企画し、学童・子供会にも参加してもらい「見て、触れる」訓練にも挑戦する。

→全戸配布の訓練案内は「だるまHP」→会員レポート・2022→稲垣の欄子の添付参照

※旭区が提唱する「互近助」マニュアルの6つのステップを踏襲した複合訓練を実施※

0005_20200327.pdf (yokohama.lg.jp)

南信野台の防災活動経験から「**地震にも命を守り・助けるタイムライン**」があると確信した。

5. 地震地域の「命を守り・命を助ける」タイムライン



地震災害 Timeline	住氏の行動 自助=My・Timeline	互近助=Our・Timeline=共助=Community・Timeline
事前準備	☐ 耐震家に住む ☐ 家具を固定化 ☐ 感震ブレイク設置 ☐ 消火器2台保有 ☐ 5日分の備蓄(食料・水・トイレバック) ☐ 避難所までの安全経路確認済み	☐ 町の災害リスクを住民に普及、徹底(下駄監視、火災) ☐ 町内に自主防災隊を組織 ☐ 防災備品の購入整備 ☐ 年1回の防災力検定(世帯状況、要支援情報、自助準備) ☐ 毎年の防災・安否確認訓練実施(要支援者優先訪問)
直後 ～2分	☐ 自宅での安全確保 ☐ 脱出経路確保(ドア、玄関、窓)	直後～15分は
2分 ～5分	☐ ガス元栓閉 ☐ ブレーカー断を確認 ☐ 安全スペース(廊下、玄関)で様子見	自治会・被災センター役員・実働隊も、
5分 ～15分	☐ 災害情報入手(お薬手帳持出品準備) ☐ 自宅出火→消火器消火(火事大・大声で) ☐ 安全タオルを門扉に消火器を玄関前へ	自宅My・Timelineを実施する・・・
15分 ～30分	☐ 安否確認訪問者に自宅の状況報告 ☐ 異常発生は大声(お薬手帳)で助けを求める ☐ 安全なら「いっときき」に集結・情報収集	☐ 被災センター/いっときき避難場所の立ち上げ ☐ 安否確認隊は町内(10～20戸)全戸訪問(要支援者優先) ☐ 実働隊(消火、救出、搬送)は機材準備/活動準備
30分 ～1時間	☐ 町内からの要請で、いっとききリーダーの指示 ☐ で異常発生現場に赴き、実働隊活動を支援	☐ 近隣小火発生：近隣消防署等呼びで初期消火活動 ☐ 異常発生：現場とセンターで1グループで連携して実働隊を ☐ 現場に派遣(消火、救出、搬送)活動が中心
1時間 以降	☐ 町内被災状況の整理/今後の方針整理 ☐ 怪我人の病院搬送 ☐ 被災本部に防災トイレ開設・・・ ☐ 延焼火災：風上の広域避難場所へ搬送(自治会では2カ所以上を指定) ☐ 避難所と町内関係開設・・・ ☐ 家屋倒壊世帯：避難所へ避難世帯を誘導と在宅避難世帯を登録→要支援特記を含む世帯情報提供要	

① 自分の命を守る=My・Timeline=自助 ② 近所の命を助ける=Our・Timeline=互近助

③ 地区で町を守る=Community・Timeline=共助

地震被災後勝負の1時間では「互近助防災」=Our・Timelineの重要性を確認

6. 残された課題は何か?

①「弱者への視点」

<できている事>

・毎年、世帯カードアンケートで「要支援者情報」を収集、班内で存在認識共有

<できていない事>

・安否確認での要支援者「優先訪問」は、今後のテーマ(白鳥村、洋国団地になれるか?)

・日常的な見守りとコミュニケーション機会の設定

・「要支援者タイプ別」の支援方法の習得と避難誘導訓練

・「子ども110番」:110番登録世帯と当該児童との交流(顔見知り化)

②「地域連携」

・拠点避難所(=小学校)との「連携・やり取り情報」・・・ほとんど明確化されてない!!

拠点避難所申請、在宅被災世帯登録、配給物資、要支援避難者、開設病院情報・

自治会(被災センター)と拠点との通信手段、小学校との防災連携、・・・

・近隣自治会との「装備・機器」と「サポート人員」の相互融通関係確立

③「世代間継承」

・40代、50代の世代の防災活動への参加 → 次世代幹部候補の確保・連携

・平日日中の最大戦力「中学生」との連携 → 将来被災人との先行連携

7. 自戒と反省と提言

①「ミーイズム」な活動→自治会に閉じた活動、近隣へ広がらない→「リーダーの人間力/能力?」

→「人間の(動物的)リスク認知力低下?」、「正常性バイアス」を突破する智慧不足?

② 連合も「興味」は示すが「具体的な取組み」はしない、自治体もそれを放置!!!

→連合自治会は「やる事いっぱい防災は後回し?」「総論賛成 But 各論に踏み込まず?」

③ 県も「自主防災組織率85%」に満足?して、実態調査はしない。絵に描いた餅の横行!!

→私の地域(連合自治会)で、自主防災をやっているのは3カ所のみ??

→あとは、区に「防災役員名簿と活動実績(実態のない架空報告?)を提出し助成金を貰う。

④ 地域防災計画=自治体、地区防災計画=町内会の上から目録の羅列で、現場に根づいた

近隣共助・互近助防災を現場に下りて一緒に作り上げる姿勢は「お上」には無い

→地区では「安否確認事例」をHPに掲載、『互近助防災8ステップ研修会』を開催中

⑤ 民間の防災グループ(研究会)も「知識・講座偏重」で「現場支援」の姿勢が乏しくマンネリ化

→「だるま」に「実践的自主防災事例交流の広場」を作れないか??

この悩みを解決する智慧をください。一緒に悩んで下さい。

地震(火災)の災害リスク(稲垣)

【旭区の高台1985年以降の新興住宅地】

『南笹野台』自治会

- ▶ 高台で津波・洪水・土砂災害リスク無し
- ▶ 「地震対策」に集中「怪我・圧迫死・火災対策」
- ▶ 戸数(200戸)自治会加入率98パーセント
- ▶ 地震発災後1時間以内の救出活動

～人的被害のまち～を目指す～

「命を守り 命を助ける→互近助防災

「3年任期の減災センター」「自主防災隊」

原田剛講師【談義の会】

- ▶ 会長の役割・・・災害時に機能する『仕組み』を作ること
- ▶ 災害から『人命・財産の被害を防止・軽減』する仕組み
- ▶ 『地震』を想定した・・・仕組み 自然勝手に『協力者』と『道具』が集まる仕組みを作る
- ▶ 『水害』を想定した・・・仕組み
『会長の役員招集指示』が重要・・・指示をしやすくする工夫

【地域の共助の力で災害から命を守るには】

- ▶ 自治会の中に「自主防災会を設立」人材育成
- ▶ マイタイムライン・コミュニティタイムラインの作成・勉強会を実施→マニュアル作成
- ▶ 【時系列の避難行動】
- ▶ まずは自分の住んでいる地域の地形の成り立ちとリスクを知る【微地形図・地盤図・ハザードマップ・災害の歴史】
- * みんなで楽しくまち歩きをして「防災マップ」作成
- * その成果を踏まえて図上訓練と実際の「防災訓練実施」
- ★ 地区防災計画に挑戦して継続できるシステム作り

【Bサロンが目指す目標】

災害時に命を守る互近助の力を発揮する
地域の実情によりそう防災(コミュニティ形成)

＊ 自助の備えが基本だが自助の行動を促すのは共助の力
と地域の支え合いが必要

＊「個人の判断と行動が命を守る」

＊「自助が命を守り互近助が命を救う」

＜要援護者を救い災害時の関連死をなくす＞

(マイ・互近所・コミュニティタイムラン作成し
訓練を実施→地区防災計画を進める)